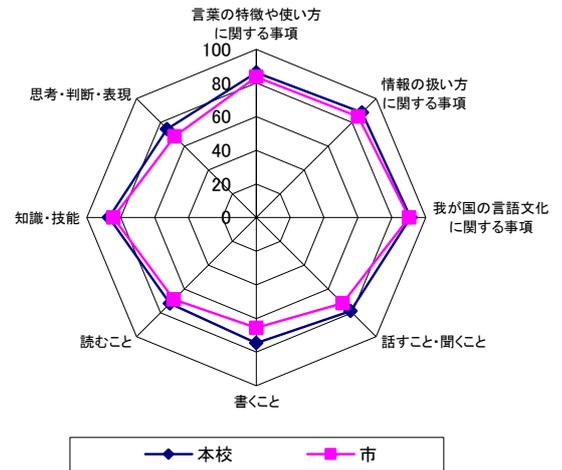


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

	本年度			
	本校	市	参考値	
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	86.2	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	88.2	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	91.0	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	78.7	72.1	67.8
	書くこと	74.6	65.5	51.8
	読むこと	72.2	68.9	57.8
観点別	知識・技能	86.9	84.4	80.5
	思考・判断・表現	74.5	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

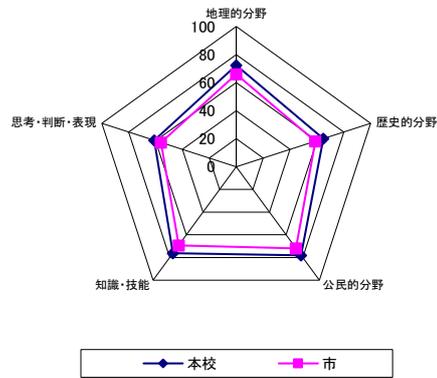
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は86.2%で市平均より2.6ポイント上回った。 ○全ての問題で市平均を上回っていた。 ●漢字を書く問題の「許す」は市の平均を上回っているものの、国語全問題の中で無回答率が唯一、2桁の10.7%だった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・3年間を通して、漢字テストを授業中に行ってきたが、日常生活で漢字を実際に「書く」頻度が低くなってしまっている。端末を使って学習する機会も多いが、実際に紙に書く機会を意識的に作っていく必要性を感じる。 ・読書量は多いので、類義語、故事成語を始め、語彙力は豊かである。引き続き、進んで読書のできる環境を作っていきたい。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は88.2%で市平均より3.2ポイント上回った。 ○問題は一通りできなかったが、市平均を上回っていた。	・情報に関する事項は、読む力と連動される。そのため、様々な文章に触れる必要がある。その中でも、重要な情報はどこか、発信者が伝えたいことや意図は何かを読み取る指導を行っていく必要がある。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は91.0%で市平均より0.8ポイント上回った。 ○問題は一通りできなかったが、市平均を上回っていた。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことなどは、1年生からの反復で定着してきた。一方で、「古文が苦手」という意識は払拭できていない。まずは、古典の世界をイメージしやすいように、便覧を用いて文化の違いを理解させるなど、親しみを持たせ、古文の指導を行っていきたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は78.7%で市平均より6.6ポイント上回った。 ○全ての問題で市平均を上回っていた。 ○「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」かを問う問題では、市平均より9.1ポイント上回った。	・話し合い活動では、意見を出し合い活発に話すことができる。根拠の適切さについては、1年次から系統的に指導してきたが音声言語の特質から、流れていく談話の中で、根拠を順序立てて話すことはあまりできていない。ただの感想になっていないかなど、吟味しながら話す指導を行いたい。
書くこと	平均正答率は74.6%で市平均より9.1ポイント上回った。 ○全部の問題で市平均を上回り、更にほとんどの問題で市平均を10ポイント前後上回っていた。 ○「紹介する文章を書く」問題では、市の無回答率は25.2%だったのに対し、7.3%と17.9ポイントも下回った。	・3年間、継続的に「書くこと」の指導を行ってきた結果が表れた。授業ではほぼ毎時間振り返りを文章で書いているため、書くことへの抵抗感が低いと考えられる。自分の意見の根拠の客観性、確かさについては、「話すこと・聞くこと」とともに、意見文や批評文でも何度も学習してきた。引き続き、構成などについても繰り返して指導していきたい。
読むこと	平均正答率は72.2%で市平均より3.3ポイント上回った。 ●「文章の構成や論理の展開について評価する」問題では市平均から0.5ポイント下回った。	・問いと答え、考えと根拠、反対の関係といった段落ごとの関係性を理解するような指導や、接続的表現に注目して読む指導を継続していきたい。 ・文学的な文章では、批評して読むことの学習で、表現技法や情景描写、登場人物の関係や伏線など、深く読み込んで日常の読書生活に結びつけていく指導を行いたい。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	72.3	66.0	57.8
	歴史的分野	64.8	58.9	51.4
	公民的分野	78.1	72.0	72.2
観点別	知識・技能	76.2	69.3	62.9
	思考・判断・表現	61.0	56.0	49.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

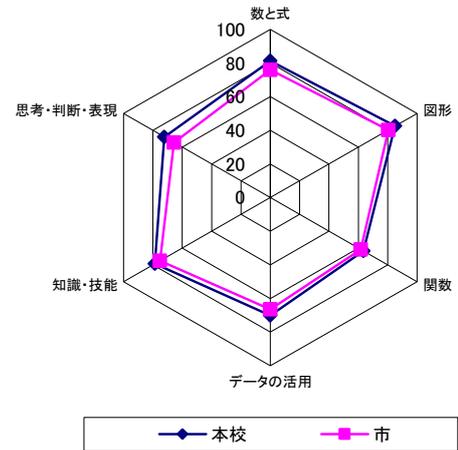
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○平均正答率は、市の平均より6.3ポイント上回り、良好である。知識・技能と思考・判断・表現の両観点共に、ほぼすべての問題で市平均より正答率が上回り、良好な結果であった。</p> <p>○記述式問題の正答率は、市平均を大幅に上回っており、大変良好である。</p> <p>●「日本の地形の特色」と「日本の交通網の特色」の問題は、市平均をやや下回っており、課題が見られる。いずれも基本的な知識や一般的教養があれば解ける選択問題であり、対策が必要である。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識・技能がしっかり定着している。また、考えを文章化して書く問題にも対応できている。これからも基本的知識や技能を確実に定着させる工夫をしていく。 ・資料を読み取り、自分の考えを文章として表現する学習活動を増やしていくことで、グラフや地図を活用する力を育て、より深い思考力や表現力を培っていく。 ・今後は地図と関連させて資料を読み取る力や複数の資料を読み取る力が求められる。地図やグラフ、資料の読み取り方については、読み取るポイントを授業で丁寧に指導するとともに、既習事項を生かして考えるように、授業で意識して指導する。 ・地図帳を効果的に利用し、地理的分野への関心を高める。
歴史的分野	<p>○平均正答率は、市の平均より5.9ポイント上回り、良好である。知識・技能と思考・判断・表現の両観点共に、ほぼすべての問題で市平均より正答率が上回り、良好な結果であった。</p> <p>○短答式問題の正答率は、すべて市平均を上回っており、大変良好である。</p> <p>●「国会開設の勅諭と政党の結成」の問題は、市平均をやや下回っており、課題が見られる。基本的な知識や一般的教養があれば解ける選択問題であり、対策が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識・技能がしっかり定着している。また、思考して表現する問題にも対応できている。これからも復習を充実させ、基本的知識や技能を確実に定着させる工夫をしていく。 ・文献資料や歴史資料の活用を広げ、歴史的事象のつながりや多角的な視野で物事を捉える見方を培っていく。 ・史料や年表を活用する習慣を付けさせることで、海外との関係や歴史の流れをつかめるようにする。 ・既習事項を生かして考える力を付けるために、思考するポイントを教える授業を効果的に実施することで、資料を活用して思考する問題に対応する学力を伸ばしていく。
公民的分野	<p>○平均正答率は、市の平均より6.1ポイント上回り、良好である。知識・技能と思考・判断・表現の両観点共に、ほぼすべての問題で市平均より正答率が上回り、良好な結果であった。</p> <p>○記述式問題の正答率は、市平均を大幅に上回っており、大変良好である。</p> <p>●「日本の少子高齢化にともなう課題について、資料を読み取る」問題は、市平均をやや下回っており、課題が見られる。基本的な知識や一般的教養があれば解ける選択問題であり、対策が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識・技能がしっかり定着している。また、考えを文章化して書く問題にも対応できている。これからも復習を充実させ、基本的知識や技能を確実に定着させる工夫をしていく。 ・資料を読み取り、自分の考えを文章として表現する学習活動を増やしていくことで、より深い思考力や表現力を培っていく。 ・また、多角的な視野で物事を捉える見方を培っていく。 ・自分の考えを文にしてまとめる活動のポイントを教える授業を効果的に実施することで、表現力を向上させていく。 ・授業の導入で身近な社会に関する話題やニュースを取り入れるなどして、一般的な教養や知識を広げ、公民的分野への興味関心を高めることで、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	81.3	76.0	69.0
	図形	85.0	80.5	67.7
	関数	63.4	61.6	55.0
	データの活用	70.1	66.5	56.4
観点別	知識・技能	78.7	75.1	69.4
	思考・判断・表現	72.2	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

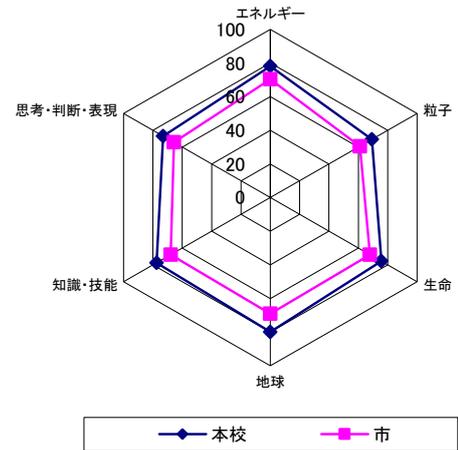
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は81.3%で、市平均より5.3ポイント高かった。</p> <p>○ほぼ全ての問題で市平均を上回っていて、特に基本的な計算問題の正答率が高い。</p> <p>●式を適切な形に変形させる問題で正答率が市平均と差があまりなく、44.9%と低かった。</p>	<p>・基礎基本を定着させる指導が効果を上げているので今後も続けていく。</p> <p>・平方根という3年で学習する新たな数の意味についてペア学習や、繰り返し学習を行うことで実感をともなった理解ができるように指導していく。</p>
図形	<p>平均正答率は85.0%で、市平均より4.5ポイント高かった。</p> <p>○全ての問題で市平均を上回っている。</p> <p>●中学1年生の単元問題の図形の移動や、おうぎ形の面積の求め方の問題の正答率が低かった。</p>	<p>・証明などでペア学習を活用して基礎基本だけでなく、思考する力もつける学習が効果をあげているので今後も続けていく。</p> <p>・既習事項を授業で復習をしつつ、繰り返し学習を行うことで定着できるように指導していく。</p>
関数	<p>平均正答率は63.4%で、市平均より1.8ポイント高かった。</p> <p>○xやyの値から、立式する問題について市平均を上回っている。</p> <p>●yの増加量や、2次関数におけるyの値の範囲の問題について市平均より下回った。</p>	<p>・関数の中でも、どの問題にどの解き方が必要なのか理解し、繰り返し学習を行うことで定着できるように指導していく。</p> <p>・1～3年生の縦の繋がりを意識しながら繰り返し復習することと、式やグラフが何を表している、それをどう活用して問題を解いていくのかグループで学び合うなどして学力を定着させていきたい。</p>
データの活用	<p>平均正答率は70.1%で、市平均より3.6ポイント高かった。</p> <p>○データを読み取るや確率の問題について市平均より上回っている。</p> <p>●四分位範囲を求める問題について市平均より下回った。</p>	<p>・基礎基本を定着させる指導が効果を上げているので今後も続けていく。</p> <p>・度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図といったそれぞれのデータの表し方の良さについて理解できるように指導していく。</p> <p>・データから何を読み取ることができるのか考える時間を十分に確保し、それについてグループで検討することで数学的に説明する力をつけていきたい。</p>

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	78.1	70.3	59.4
	粒子	69.2	61.1	56.4
	生命	75.7	67.9	62.7
	地球	79.9	69.1	65.6
観点別	知識・技能	77.5	67.9	63.8
	思考・判断・表現	73.0	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

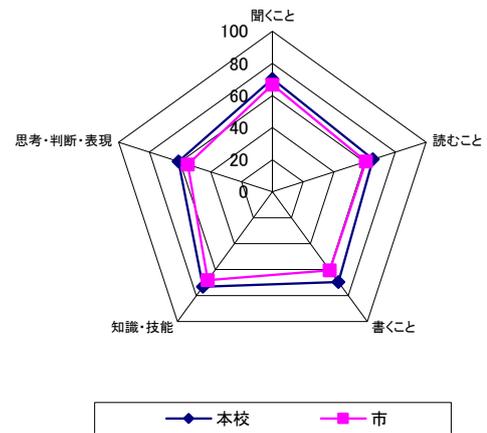
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は78.1%と市の平均よりも7.8ポイント上回っている。 ○ほぼ全ての設問に対し80%以上の正答率であった。 ●電流の粉末インクが帯電していない部分以外に付着しない理由の説明では、市・全国の平均は上回るものの、50.6%と他と比べると低い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 引き続き実験・観察の結果から考察する時間を十分に確保し、思考力を高める。 多くの計算問題に取り組みさせることで、計算に対する苦手意識を無くしていく。 既存の知識をもとに、推察・思考しながら正答を導けるような課題の提示を行い、今まで以上の深い探究を進められるようにしていく。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は69.2%と市の平均よりも8.1ポイント上回っている。 ○全ての問題で市の平均点を上回っている。 ●水溶液のイオンの問題では、水素イオンの数の変化についての正答率が市・全国の平均は上回るもののほかの項目と比べると低い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験で得られた結果をもとに計算したり、グラフから読みとったりすることを継続して行ってきた結果、高い正答率を得ることができた。引き続き、実験・観察の結果から考察する時間を十分に確保し、思考力を高める。
生命	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は75.7%と市の平均よりも7.8ポイント上回っている。 ○全ての問題で市の平均点を上回っている。 ●遺伝の規則性を問う問題では、市の平均を上回るものの、正答率が55.1%と他の項目と比べると低い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物の分類や植物の体のつくりとはたらきについては高い正答率であった。引き続き、映像資料等も活用しながら定着させていきたい。 遺伝子について、知識の部分で不十分な部分があるので、基礎の演習と遺伝の規則性についても確認をしていきたい。
地球	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は79.9%と市の平均よりも10.8ポイント上回っている。 ○全ての問題で市の平均点を上回っている。 ●低気圧とその周りの大気の流れについての正答率がほかの項目と比べると低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 図や表・映像資料を用い、知識の定着を図る。 既に学習したことを論理的に考え、自分の言葉で文章化する力を高める。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	70.3	66.8	61.5
	読むこと	65.4	60.9	55.5
	書くこと	69.5	60.5	50.9
観点別	知識・技能	73.2	68.1	64.1
	思考・判断・表現	61.1	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は70.3%で市平均より3.5ポイント高かった。</p> <p>○ほとんどの問題で市平均を上回った。特に、対話文を聞き、内容を理解して適切に応答する問題においては、市平均を7.1ポイント上回った。</p> <p>●物の説明に関する問題では、市の平均を0.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> リスニングをつけるための教材が不足していると考え。次年度は日々の授業で継続して使用できる教材を精選したい。 聞き取る力を育むために、場面設定を重視した言語活動を日常的に取り入れていく。
読むこと	<p>平均正答率は65.4%で市平均より4.5ポイント高かった。</p> <p>○ほとんどの問題で市平均を上回った。特に、メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させる問題においては市平均より14.4ポイント上回る55.6%の正答率であった。また、長文の読み取りも全体的に優れ、代名詞が指す内容理解の問題においては、市の平均を13ポイント上回った。</p> <p>●発表のための原稿を読み、概要を捉えて適切なスライドを選ぶ問題では市平均を2.2ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長文の概要や要点を読み取る練習を今まで通り継続して行っていく。 語形・語法の知識・理解が不十分である生徒もいるので、単語や文法事項など、基礎的な内容を定着させるためにこまめに小テストを行い、苦手意識の強い生徒には特に根気強く丁寧に教えていく。
書くこと	<p>平均正答率69.5%で市平均より9ポイント高かった。</p> <p>○すべての問題で市平均をはるかに上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、英語で自己表現ができるようになる活動を定期的に継続的に行う。

宇都宮市立豊郷中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導目標を明確にし、指導内容の充実 →評価計画を見直し、指導と評価の一体化についての評価の研究を推進する。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 →「宇都宮モデル」(はつきり！じゅくり！すつきり！)を活用する。 →1人1台端末を効果的に活用した授業の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した1～3年生の生徒の割合は86.2%で、市の平均を3.6ポイント、「自分の考えを、根拠を上げながら話すことができる」は81.7%で、市の平均を6.5ポイント上回っている。また、「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」は84.8%で、市の平均を4ポイント、「パソコンを使って、相手にわかりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」は92.4%で、市の平均を3.5ポイント上回っている。
学力向上を目指し家庭及び地域・学校園と連携した「豊郷の豊かな学び」の実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を充実させるための指導 →日頃の宿題の出し方や、テスト前後の具体的な学習方法の指導を工夫する。 →生徒会学芸委員会による、各教科担任が勧める家庭学習のやり方について、情報発信する。 →学年保護者会や新入生保護者説明会、三者懇談での学習に関する情報発信や学習相談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」に肯定的に回答した1～3年生の生徒の割合は80.7%で、市の平均を7.8ポイント、「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している」67.9%で、市の平均を10.6ポイント上回っている。また、「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」に肯定的に回答した1～3年生の生徒の割合は81.6%で、市の平均を12ポイント、「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」は71.9%で市の平均を7.6ポイント上回った。 ・「家の人は、あなたの学習に関心があり、必要な注意やアドバイスをしてくれる」に肯定的に回答した1～3年生の生徒の割合は85.9%で、市の平均を2.7ポイント上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- 市の調査結果から見えた課題
 - ・文章の構成や、論理の展開を意識して文章を読む力が乏しい。
 - ・資料を読み取り、推測することが難しい。
 - ・論理的に考え、自分の言葉で表現することが苦手な生徒がいる。
- 県の調査結果から見えた課題
 - ・理由と共に自分の考えを書くことが難しい。
 - ・資料の特徴を読み取ること、資料をもとに推測する力に乏しい。
 - ・読書量がかなり少ない生徒がいる。
 - ・新聞の活用がされていない。
- 国の調査結果から見えた調査
 - ・思考力や判断力、表現力などを評価する問題における無解答率がやや高い。
 - ・図や表などの資料から情報を読み取る力に乏しい。
 - ・筋道を立てて、自分の言葉で説明する力が不十分な生徒がいる。
- ◎次年度の方向性
 - ・引き続き、言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成を図ることを重点的な取り組みとし、具体的な内容は以下である。
 - ・あらゆる授業等において、自分の考えたことを理由と共に話し、話したことをまとまりのある文章で書く活動を取り入れる。その際、端末を活用するだけでなく、実際に紙に書く活動も意識的に行う。
 - ・あらゆる授業等において、実際の生活に即した資料を用い、資料から物事の特徴を捉えたり、比較、検討したり、伝えたいことの概要や点々を捉えたりして、わかったことや考えたことを中心に、授業で書籍や新聞を活用し、資料を読み取る力、文章を要約し自分の言葉で表現する力や、様々な社会的なテーマについての知識を得て、自分の見解を分かりやすく述べる力をつけさせる。
 - ・家庭学習を充実させるために指導（特に計画の立て方や授業内容の復習の仕方について）を継続する。